

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2007年6月1日

45号

レダ（パンタナール）は地球温暖化防止のモデル地域

自然の豊かさと尊さを体感しよう!!



ボラーチョの木とその棘



レダ敷地内に植えられたマンゴ

六月になると、パンタナールは酷暑の夏が過ぎ、しのぎ易い日本の初秋の気候になります。野菜や果物も豊富に採れます。レダのマンゴーは、一般に市街の街路樹で沢山の数を実らせているマンゴーより実が大きく一層美味しい種類です。

「桃栗三年柿八年」と日本では言いますが、植樹されたマンゴー（上の右写真）は四年程たった木で、毎年木の成長につれて実の数も増えていっています。二十mを超える大木になると、一本の樹で何百個、何千個と実ります。果樹園の中には、植樹されたマンゴーやパイナップル、グアバ、バナナなど、南国の恵み豊かな果物が豊富に採れます。

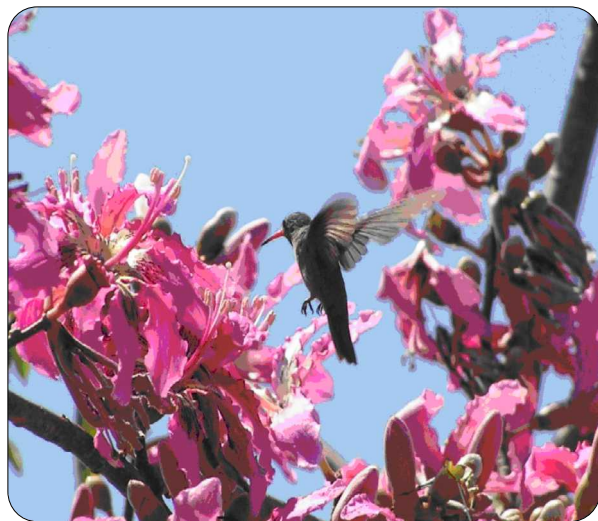
青年ボランティア隊の皆様が来られる8月は、冬の季節ですが、ラッキーなら、直接木からもぎ立ての新鮮な果物を味わうことが出来るかもしれません。

上の写真左の樹は、ボラーチョ（酔っ払いの樹）といわれ、南国特有の樹です。樹が大きく成長するまでは、幹はしっかりと硬い大きな棘が、ハリネズミのように覆っています。

皆様も、よく熊が背中を大木にこすり付けている映像をご覧になったことが有ると思いますが、棘のおかげで、牛や馬でも体をすり寄せることが出来ませんし、ましてや幹の皮をかじることは無理です。こうした若木の内は、折られないよう食べられないように、こつこつと棘を出して自分を守っているわけです。成育すると棘がなくなります。パンタナールはとにかく草も樹も棘のあるものが多いのには驚かされます。

ちなみに私が植えた黄色い花の咲くラパーチョの樹は、三年たつて、馬が背をこすりつけた為、一m位のところからポツキリ折れてしまいました。それでもパンタナールの木々は生命力が強く、折れたところから芽が出て、七年たった今では立派に成長して、鳥や蜂が巣を造るほどになっています。

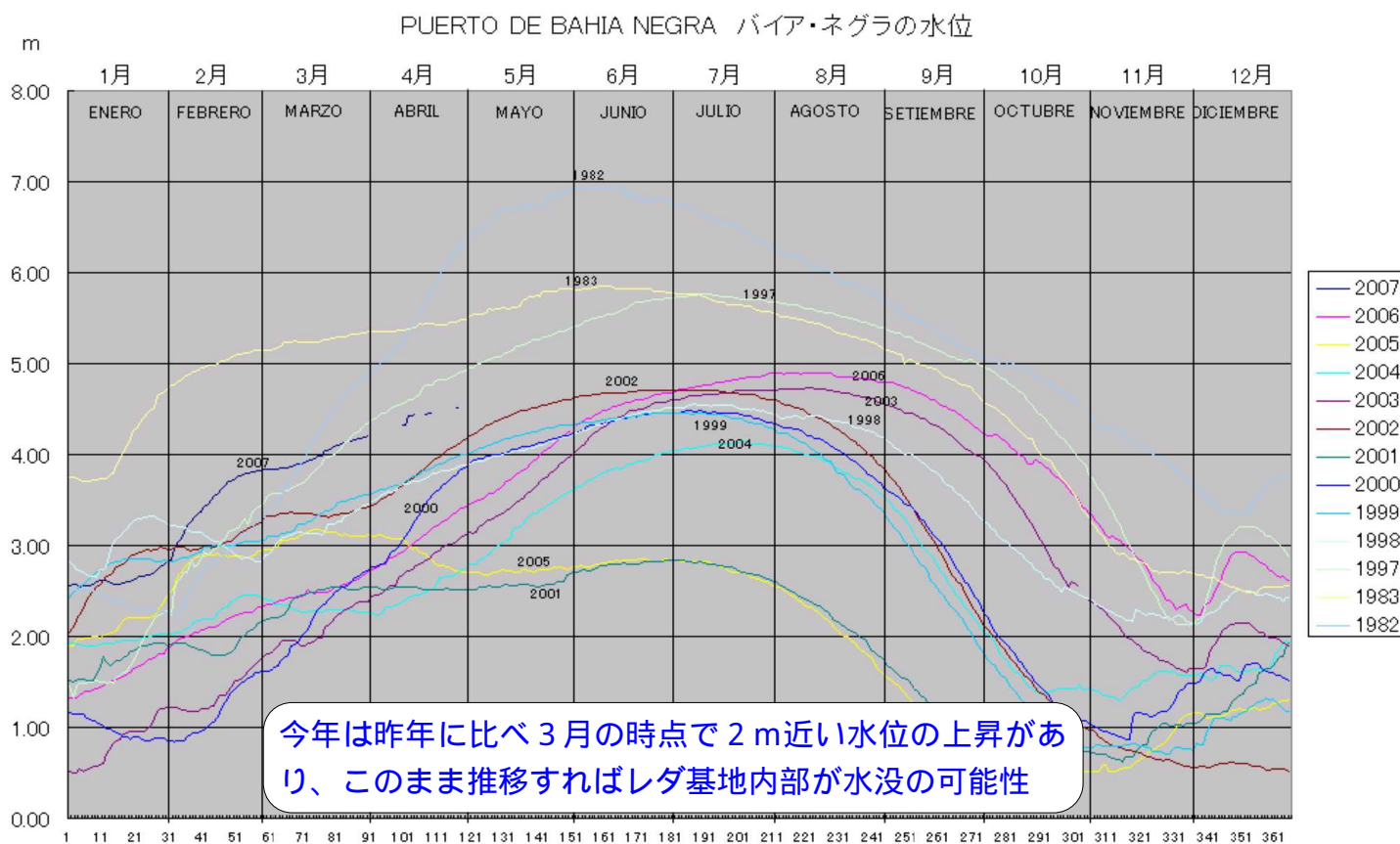
ボラーチョの花は白やピンクのユリの花のようなラッパ型の美しい姿で、この写真の樹には、ハチドリも密を吸いにやってきます。



さらに、このボラーチヨの樹が「酔っ払いの樹」と言われる所以は、私が思うに、成長した樹のスタイルから来ているのではないかと思われます。それは日本の樺の樹のような大木となり、その時の根元近くの幹は、ビヤ樽のように丸く太っているのです。その中には水分を多量に含む樹液があり、渇水期に水不足の時は、それを飲料水がわりにするとも聞いています。不思議な形で人々を楽しませるだけではなく、最後にはいざと言う時に、人に命の水を提供すると言うのですから、自然の世界は本当に良くできていて感動を覚えます。

飯野貞夫記

パラグアイ川の水位上昇でレダ基地浸水の可能性



本流の水が入り始めた川岸近くに新しい堤防を造成する。



赤い棒が2本立っているところがコンクリートの先端です。先端は、水面下約23cmです

インド訪問記（伊達勝美）四月十九日 二十日

十九日の夜ネパールから到着、飛行場からアッサムゲストハウスに向かう。そこに一泊して、グプタ氏と連絡、出会うべく研究所に車で行く。研究所はニューデリーから西に約六十キロのところにあり、一時間半ほどかけて到着した。ここでは、インドの各地からジャトロファの苗を集めて研究している。一番油の含有率の良い種ができるのは、ニューデリーの南西部に位置する、ラジスタン州のもので、五十%の油を含むという。種は一日、水につけて植える。月二回程度の灌水をして、NPKは五十gずつ与える。挿し木で植えた方が、栽培は簡単であるが、種の質は落ちるとのコメント。一本の木から十キロの実が得られ、種はその三十%として三十四キロ得られる。

大きな木が数本見られたが、五年間ほどたっていると聞いていた。収穫は種が木から自然と落ちるのを待つて、地上で拾うので簡単だ。

大きな規模での栽培は、モニプール、オリッサ、タミールナドなどで行っているようである。

四月二十六日

タジ氏と会って、彼の車で出発、途中、グプタ氏と会って、彼を乗せて南西部に向かって2時間ほど走る。田舎の細い道に入って、少し歩いてジャトロファを植えている農家を訪問。ここでは、四年前に五百本ほどのジャトロファを垣根として直線に植えて、現在は自然に増えたものも含めて八百本ほどになっている。高さは二・五mほどで間隔がつめてあるので、まっすぐに上に伸びていた。中の畑には麦や野菜などを植えているようだ。一本の木から、最低5キロの種が取れるように、種は政府がキロあたり、五十一百Rで買ってくれる。



日干しにして、乾燥させてからビニール袋に入れて、涼しい場所に保管する。環境が良ければ二年間の保存が可能とのことであった。種を植えるのは六七月頃で、雨季に入るころ。収穫は三月頃だが、環境によつてその時期は異なる。

この地域では、道路わきにも自然に生えているジャトロファやヒマが見られた。インド政府が二〇〇〇年にジャトロファ栽培を促進する為に、農林省、環境省石油省など数箇所の省が合同で事業を開始したが、相互の省の連絡も不十分で貧農は明日の食べ物を得られることが大切で、三十四年間待たないと収益にならないジャトロファにはあまり関心をしめていない。グプタ氏によると、ジャトロファは強い植物で、苗を土から抜いて土を落として一五日間ほどたってから、再び植えても育つので、良い苗を他の場所に持ち運ぶことも可能だという。ジャトロファの葉も肥料になるし、ジャトロファ自身が土地改良の役割もする。彼は、農作物耕作、特にアロマオイル関係の植物のコンサルタントで長年、インド全国で農業指導をしていて、ニームに関してもかなり詳しくあった。



第7回 国際協力青年ボランティア隊員募集

提出期限：6月30日!!

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会が得られるよう国際協力青年ボランティアを下記のように企画致しました。

期 間：2007年8月19日(日)～9月5日(水) 8/18(土)：オリエンテーション

活動場所：パラグアイ、パンタナール地域 活動内容：州都オリンボ市で植樹活動及び文化交流、

レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験

参加資格：18歳以上25歳まで

参加条件 小論文(400字以内)提出 テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月30日

小論文に各紹介者の推薦文を添付すること

提出先：南北米福地開発協会

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：7名

参加費用：15万円

成田 アスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。

(小遣い、海外保険、家から成田までの往復費用などは個人負担)

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局

TEL: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

Email: office@asd-nsa.jp

ピースライフセミナー(五月三、四日)

今回のセミナーの参加者は四十名でした。

「私は小さい頃から自然の中で育ってきたので、自然問題にとっても興味があります。私のように若い人たちが平気でゴミをポイ捨てする場面をよく見て私の周りの皆へ、皆から更に周りの人たちへと。何かできることはないか?と参加しましたがとても素敵な話や今の地球の問題、一人ひとりが何をすべきか勉強になりました。今回、学んだ事を周りの人たちに伝えていきたいと思っています。」

二十歳

「今回、初めて参加させて頂きました。最後まで参加させて頂きとても感銘を受けることが出来ました。毎月、パンタナール通信を送っていたのですが今回のセミナーによって具体的にどの

様な活動をして
いるかとい
う事を知るこ
とが出来まし
た。普段、余
り深く地球環
境問題等に関
心がなく、余
りにも無関心
であった自分
に反省させら
れました。
四十八歳
次回は八月の予定



青年ボランティア隊

派遣に当たって

【支援金のお願い】

従来、学校建設をなしてきましたが今年の奉仕活動部門は、地球温暖化防止を願い、植樹活動によって成すことになりました。

既に多くの方から支援を頂きましたがまだ充分ではないため支援金は六月二十日まで延期しております。

支援金振込先

郵便口座

南北米福地開発協会

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

または、現金書留にて上記当会宛、

お送りください。

南北米福地開発協会 事務局

〒二二二-〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口三十一-十五

岩崎ビル四F

電話 〇四四-八二九-二八二二

Fax 八二九-二八二〇

会費納入 郵便口座

一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦